

平成26年度 第1回がまごおり協働まちづくり会議要旨

日 時 平成26年4月22日（火）
午前10時～午後0時10分
場 所 蒲郡市役所新館5階庁議室

議題

(1) 平成25年度協働モデル事業について（市民参加型育苗事業）

- 小田委員から、平成25年度モデル事業の実績を資料により報告。
 - ・ 花苗の育成を通じて市民を巻き込み、担い手を増やすことを目的に実施。
 - ・ 障害者が毎日作業を実施。除々に近隣住民が顔を出してくれるようになり、関係性が広がりつつある。
 - ・ 市都市計画課仲村氏の指導により、6割の発芽に成功した。
 - ・ 市制60周年記念式典で花苗の装飾を実施。中日新聞に掲載された。飾った花苗はお礼として地域住民に配付した。
 - ・ 外部アドバイザーを招くことで、内容が整理され、今後の事業展開を検討することができた。次年度は、三谷小学校、三谷西保育園で幼児、小学生、保護者へ展開していきたい。
 - ・ 課題としては、情報発信が不十分であったこと、記念式典前日での花の種類変更を通して書面での引継ぎの重要性が認識されたことが挙げられる。
- 委員意見等
 - ・ モデル事業の意義は、方法論としてどのように課題解決したのかが重要。具体的な記述が助成金制度の改善にもつながる。
 - ・ 行政との情報共有をどう図っていくかが課題。
 - ・ 仲村氏の指導がなかったらどうなるのかの検討も必要。

(2) 平成26年度協働関連施策について

- 事務局から予算額を説明。
 - ・ モデル事業100万円、助成金350万円（ほぼしる300万円、はじめの一步50万円）の原資として450万円を基金に積み増す。
 - ・ 協働まちづくり基金残高は、約1,612万円。
- 委員意見等
 - ・ 今後基金はどうなっていくのか。
→（事務局）基金対象事業が増えれば積立額も増えると考えている。
 - ・ 他市では民間の資金が入ってくる動きがある。今後、他市の基金の運用、資金の入れ方、使い方など研究してほしい。

(3) 平成26年度まちづくり会議について

ア まちづくり会議にて議論する内容について

- 事務局から、委員に提案。
 - ・ 委員の任期は平成27年5月18日まで。
 - ・ 平成26年度は委員のこれまでの活動の総括ができればと考えている。今後提言の取りまとめに向けた意見や議論をお願いしたい。
 - ・ 次年度の助成金事業の進め方についてご意見をいただきたい。
- 委員意見等
 - ・ 市に対して協働の提案ができると良い。
 - ・ 過去の取組の資料が欲しい。総代会とマッチングするか検討したい。
 - ・ 年表を作る必要がある。
- 結論
 - ・ 今後の会議で総括の議論を深めていく。
 - ・ 過去の助成金一覧表を次回の会議に提出する。

イ 市民と行政の意見交換の場について（バリアフリー事例）

- 事務局から、意見交換の内容を検討するために実施したヒアリング調査の結果を資料により報告。
 - ・ 過去においては、事前に利用者の意見を聞いて施設を作ることができていたが、近年では完成後に意見を聞くケースが増えている。
 - ・ 市民と行政との意見交換の機会を創出する必要がある。
- 委員意見等
 - ・ 地域差を考えずに、マニュアルに沿って設計施工してしまうケースが多い。
 - ・ 人にやさしい街づくりアドバイザーがなぜ活躍できていないのか考える必要がある。
- 結論
 - ・ 意見交換を実施し、次回の会議で結果を報告する。

ウ 協働モデル事業について

- 結論
 - ・ 前年度に引き続き花苗事業を実施する。

その他

(1) 「ほとぼしる情熱支援部門」及び「はじめの一步部門」審査結果（報告）

- 事務局から、平成26年度の助成金事業の内容を資料により報告。はじめの一步部門で予算残額があるが、追加募集をしない予定であることを説明。
- 委員意見等
 - ・ 地域活動でお金をかけないで行っているものと遜色のないもので、多額の助成金が認められていた。お金をかけずに誰でも参加できるものの方がいいのではないかな。

→（事務局）申請書の事前確認で単価等の精査を行っている。

（事務局）会場使用料がかかるケースがある。今後の継続性が期待できるかどうかも評価基準に入れている。

- ・ パワーポイントを使った発表で、洗練された公開審査会であったが、熱意に欠けていたように感じた。
- ・ 助成金の所期の目的は、市民の担い手を増やすことにあったが、今後は助成金の事業を市の施策に生かしてもらうことが必要であると思う。
- ・ 助成金団体の出口をどう考えるかが重要。

（２）平成２５年度助成金実績報告会について（報告）

○ 事務局から、平成２５年度助成金実績報告会の内容を資料により報告。

- ・ 公開審査会とは別日で実施した。
- ・ 初めて担当課職員に参加してもらい意見をもらうことができた。
- ・ 次年度も別日で実施したい。

○ 委員意見等

- ・ 助成金団体の今後の出口を考える意味でも、担当課職員に内容を知ってもらったのは良かったことだと思う。

次回会議は６月中下旬を予定。後日事務局から日程調整を行う。

会議欠席者 西川良継委員、山本智史委員